

《口腔科学教育部博士後期課程 口腔保健学専攻（学術）》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と課題解決能力】	【2. 教育・研究指導能力】	【3. 高度な専門技能と指導能力】	【4. 国際性と情報発信能力】	【5. 社会貢献】	科目の教育目標	
基礎科目	全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理概論	◎	○				生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。	
		臨床心理学	◎					臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる。	
		社会医学・疫学・医学統計概論	◎					社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標とする。	
		英語論文作成法	◎			○		21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材には発信型英語能力が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。	
		心身健康と環境ストレス	◎	○				ストレス評価法を修得する。	
		生命科学の研究手法	◎	○				医科学・生命科学に必須の初歩的技術が理解できる	
		医療系分野における知的財産学概論	◎		○			1. 知的財産制度の全体像を理解する。 2. 研究活動や医療に必要な知的財産制度の内容を理解する。 3. 社会人として活動するに際して役に立つ知的財産制度の内容を理解する。	
専門科目	専門基礎科目	口腔保健栄養福祉学特論	◎	○	○	○	○	1. 高齢者の口腔機能状態が理解できる。 2. 高齢者の栄養状態が理解できる。 3. サルコペニア（加齢性筋肉減少症）が理解できる。 4. 加齢関連疾患とペリオドンタルミグレーションについて理解できる。 5. アンチエイジング研究について理解できる。 6. 機能性食品とその応用について理解できる。 7. ジェロントロジーに必要な各ライフステージの口腔保健の特徴を理解できる。 8. 地域医療・高齢者福祉の現状が理解できる。 9. 長寿福祉口腔保健学関連の疫学研究の現状が理解できる。 10. 歯科衛生士教育における高齢者福祉・栄養教育の現状が理解できる。	
		口腔保健教育学特別演習	◎	◎	◎	◎			1. 歯科衛生士教育のカリキュラムを構築できる。 2. 歯科衛生士教育に関わる学術論文の研究方法を理解できる。 3. 地域連携教育（PPE）に関する研究を理解できる。 4. 国際的な歯科衛生士教育に関する研究を理解できる。 5. 老年学（ジェロントロジー）の概念を説明できる。 6. 高齢者歯科教育に関する研究を理解できる。 7. 口腔疾患に関する分子生物学的研究を理解できる。
		口腔保健衛生学特別演習	◎	◎	◎	◎			1. 関連分野の学術論文の研究方法が理解できる。 2. 口腔保健に関わる栄養学研究的計画が立案できる。 3. 地域保健に関わる観察研究の計画が立案できる。 4. 歯科衛生学に関わる栄養管理下での専門的口腔ケア介入研究の計画が立案できる。 5. 栄養管理を含む臨床データの統計解析ができる。 6. 地域保健に関わる疫学データの統計解析ができる。 7. 栄養管理下での専門的口腔ケア介入研究のデータの統計解析ができる。
	専門展開科目	口腔保健支援学特別演習	◎	◎	◎	◎			1. 長寿福祉口腔保健学の方法が理解できる。 2. 関連分野の定量的・定性的分析方法を明確に理解し、当該分野の研究に応用することができる。 3. 栄養管理と加齢関連疾患の予防・発症遅延に関する観察研究の計画が立案できる。 4. 加齢関連疾患の予防・発症遅延に関連する口腔ケア介入研究の計画立案ができる。 5. 口腔ケア地域支援プログラム構築に関連する介入研究の計画立案ができる。 6. 社会的情報ネットワークによる実践的地域教育支援に関する介入研究の計画立案ができる。 7. 加齢関連疾患の予防・発症遅延に関連する研究データの統計解析ができる。
		口腔機能管理学特別演習	◎	◎	◎	◎			授業のテーマ：介護および介護予防に貢献できる口腔機能管理学研究の理解 授業の目的：口腔機能管理学の研究を遂行するために必要な研究方法の理論を事例から学び、理解を深めることを目的とする。
		口腔保健福祉学特別演習	◎	◎	◎	◎	○		1. 高齢者口腔保健学分野の研究方法が理解できる。 2. 高齢者および障がい者を対象とした社会福祉学分野の研究方法が理解できる。 3. 関連分野の定量的・定性的分析方法を明確に理解し、当該分野の研究に応用することができる。 4. 口腔保健福祉学に関わる疫学研究の計画が立案できる。 5. 地域医療福祉に関わる障害・高齢・児童福祉分野などの介入研究の計画が立案できる。
		地域医療福祉学特別演習	◎	◎	◎	◎	○		1. 関連分野の学術論文の研究方法が理解できる。 2. 関連分野の定量的・定性的分析方法を明確に理解し、当該分野の研究に応用することができる。 3. 地域医療福祉に関わる疫学研究の計画が立案できる。 4. 地域医療福祉に関わる障がい・高齢・児童福祉分野などの介入研究の計画が立案できる。
	専門科目		口腔保健教育学特別研究			◎	◎	◎	1. 決定した歯科衛生士教育に関する研究課題の意義を説明できる。 2. 歯科衛生士教育に関連する研究計画が立案できる。 3. 歯科衛生士教育に関連する倫理審査申請ができる。 4. 研究課題を遂行するための資料収集ができる。 5. 収集した資料の解析方法を選択し、その結果を評価できる。 6. 得られた成果のプレゼンテーション資料を英語により作成できる。 7. 得られた成果について他の研究者と討議し、必要な修正ができる。 8. 学術専門誌へ投稿可能な論文を作成できる。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と課題解決能力】	【2. 教育・研究指導能力】	【3. 高度な専門技能と指導能力】	【4. 国際性と情報発信能力】	【5. 社会貢献】	科目の教育目標	
			長寿福祉口腔保健学に関する諸問題に対して情報収集と分析を行い、科学的視点から保健医療・福祉に従事するチームの一員として関連の諸課題を解決できる。	長寿福祉口腔保健学領域の教育と研究を行う大学等において、その領域を展開できる教育者・研究者として指導できる。	口腔保健と地域医療福祉に関連する高度な専門技能を有し、医療と福祉の現場において患者の知識と技能を駆使した解決策を見いだし、指導的立場から実践できる。	国際社会における口腔保健と社会福祉に関する諸問題に対して情報収集能力と分析能力を有し、あわせて高度なコミュニケーション力を活用してその対策を立案し、国際社会に向けて発信できる。	口腔保健から見た栄養学や地域社会福祉制度に関する研究成果を広く社会に開示することで人々の健康と福祉に貢献することができる。		
課題研究科目	口腔保健衛生学特別研究				◎	◎	◎	<ol style="list-style-type: none"> 1. 決定した長寿福祉口腔保健学の研究課題の意義を説明できる。 2. 研究課題に関連する研究計画が立案できる。 3. 研究課題に関連する倫理審査申請ができる。 4. 必要な研究を遂行できる。 5. 研究課題のプレゼンテーション資料を英語により作成できる。 6. 研究成果の分析に必要な統計解析ができる。 7. 研究成果を学術発表できる。 8. 学術専門誌へ投稿可能な論文を作成できる。 	
	口腔保健支援学特別研究			◎	◎	◎	◎	<ol style="list-style-type: none"> 1. 決定した課題研究の意義を説明できる。 2. 課題研究の計画が立案できる。 3. 課題研究に関わる倫理審査申請ができる。 4. 立案した計画に則り課題研究を遂行できる。 5. 研究結果の解析・解釈ならびに考察ができる。 6. 課題研究に関する発表資料を英語で作成できる。 7. 研究成果を英文誌投稿用の論文として作成できる。 	
	口腔機能管理学特別研究				◎	◎	◎	<p>授業のテーマ：サルコペニア（加齢性筋肉減少症）予防・改善に貢献できる口腔機能管理学研究の立案と実践</p> <p>授業の目的：口腔保健栄養福祉学（講義）および口腔機能管理学特別演習にて修得した知識・技術をもとに、研究指導教員の指導の下、栄養管理を含めた研究課題に応じた専門的研究を行い、得られた研究成果を分析・考察し、論文とすることを目的とする。</p>	
	口腔保健福祉学特別研究				◎	◎	◎	◎	<ol style="list-style-type: none"> 1. 決定した長寿福祉口腔保健学の研究課題の意義を説明できる。 2. 遂行可能な高齢者口腔保健や障がい者福祉の研究計画が立案できる。 3. 研究課題遂行に必要な倫理申請ができる。 4. 研究計画に基づく適切な研究を遂行できる。 5. 課題のプレゼンテーション資料を英語により作成できる。 6. 高齢者口腔保健や障がい者福祉に関する研究成果の分析に必要な統計解析ができる。 7. 研究成果を学術発表ができる。 8. 研究論文を学術誌へ投稿ができる。
	地域医療福祉学特別研究				◎	◎	◎	◎	<ol style="list-style-type: none"> 1. 決定した長寿福祉口腔保健学の研究課題の意義を説明できる。 2. 研究課題に関連する研究計画が立案と倫理申請ができる。 3. 必要な研究を遂行できる。 4. 研究課題のプレゼンテーション資料を英語により作成できる。 5. 研究成果の分析に必要な統計解析ができる。 6. 研究成果を学術発表および学術誌への投稿ができる。